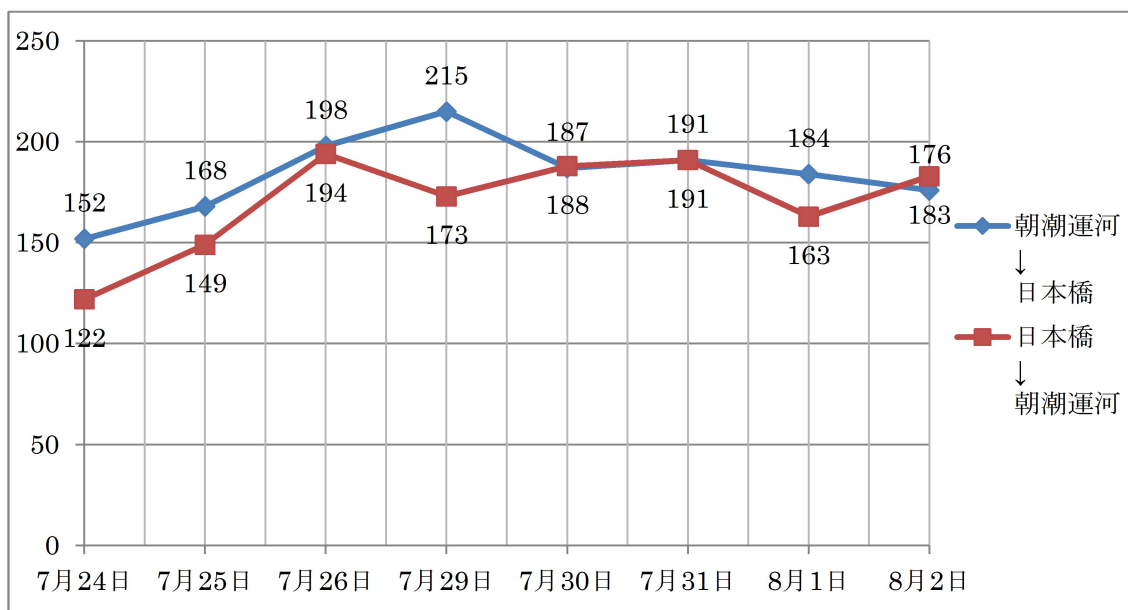


舟運社会実験の乗船人数及びアンケート結果について

1 舟運社会実験の乗船人数

単位：人



乗船人数計：2, 834人 乗船率：63% (2, 834 / 4, 480)

2 アンケート結果

- アンケート回収率は60%
(アンケート回収数 / 社会実験参加者数
1, 698 / 2, 834)
- 概要は別添のとおり

3 今後の展開

社会実験のアンケート結果や今年度調査の中で事業採算性等を検証し、実現可能性の高い航路について、関係機関とその実現に向けて調整を行っていく。

“真夏のらくらく舟旅通勤” アンケート集計結果（概要）

—日本橋～朝潮運河間 東京都舟運社会実験—

1 アンケートの回答者について

① 社会実験期間及び乗船率

- ・ 期 間：2019年7月24日（水）から8月2日（金）の平日8日間
- ・ 乗船率：63%（2,834名/4,480名）

② アンケート回収率

60%（アンケート回収数／社会実験参加者数 1,698／2,834）

③ 回答者の性別、年齢及び職業

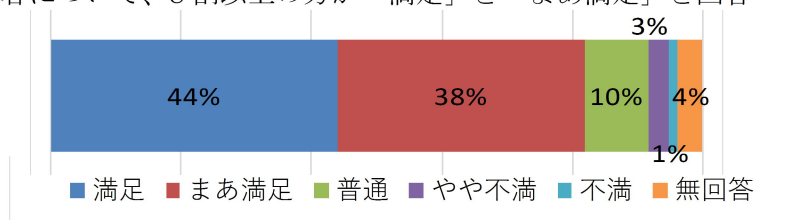
「男性」が6割で「女性」が4割となっている。

「40歳代」が30%で最多。「40歳代、50歳代、30歳代」をあわせて、7割となっている。

「会社員・公務員等」が7割を占めている。

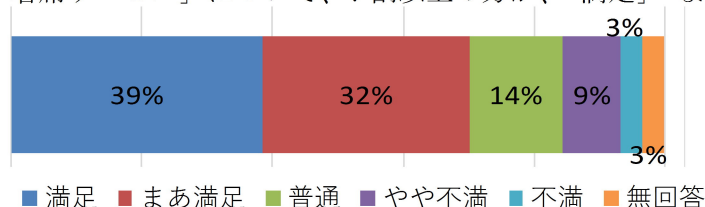
2 社会実験の内容について

◇ 社会実験の内容について、8割以上の方が「満足」と「まあ満足」と回答

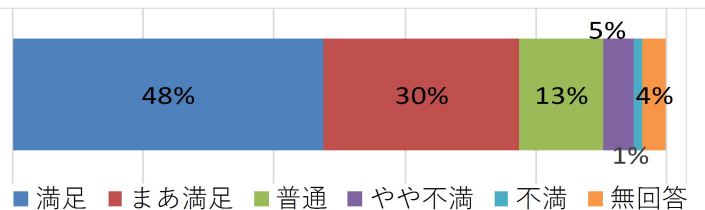


◇ 「設定ルート」、「着席サービス」について、7割以上の方が、「満足」「まあ満足」と回答

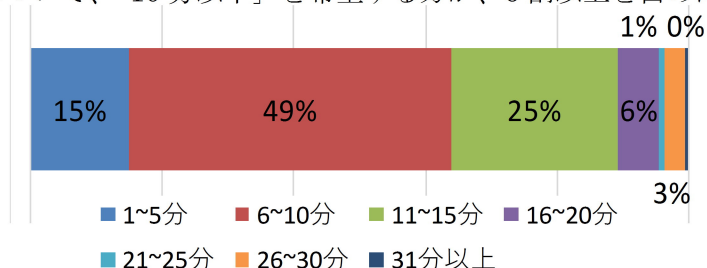
「設定ルート」



「着席サービス」

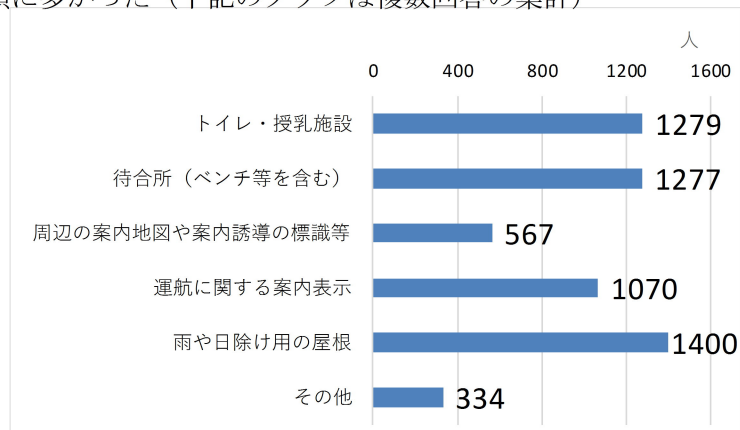


◇ 「運行間隔」について、「10分以下」を希望する方が、6割以上を占めた



3 船着場について

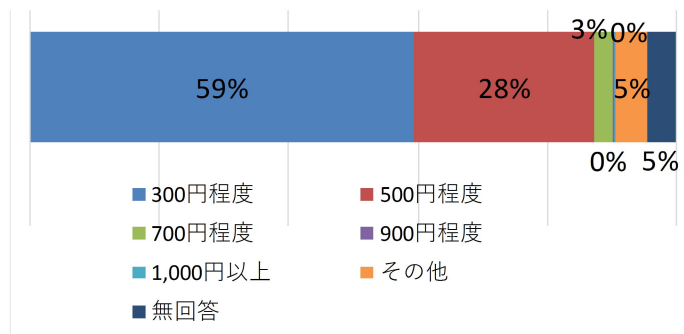
◇ 船着場にあると良いものとして、「雨や日除け用屋根」「トイレ・授乳施設」「待合所（ベンチ等を含む）」の順に多かった（下記のグラフは複数回答の集計）



4 交通手段として船の利用について

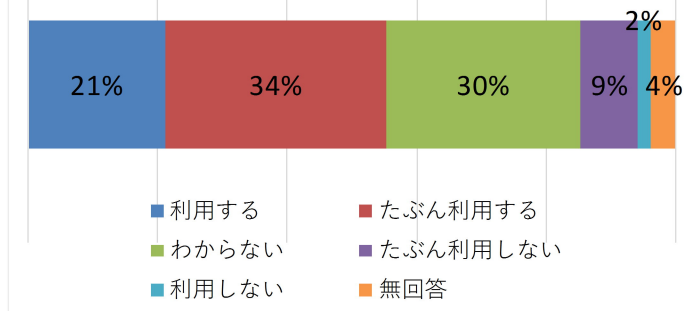
① 許容できる運賃について

「300円程度」が約6割、次いで「500円程度」が約3割を占めた



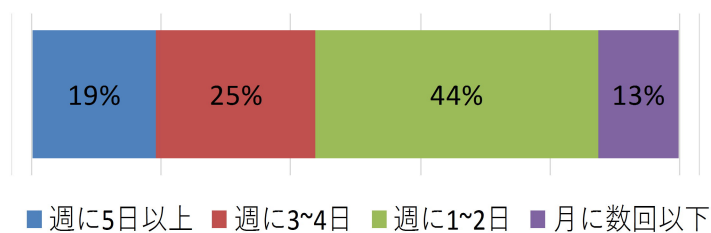
② 今後の利用意向について

「利用する」「たぶん利用する」があわせて55%占める一方で、「わからない」も3割占めた



③ 船を利用する頻度について

「週に1~2日」が約44%を占めた



④ 希望の始発時間帯と終発時間帯について

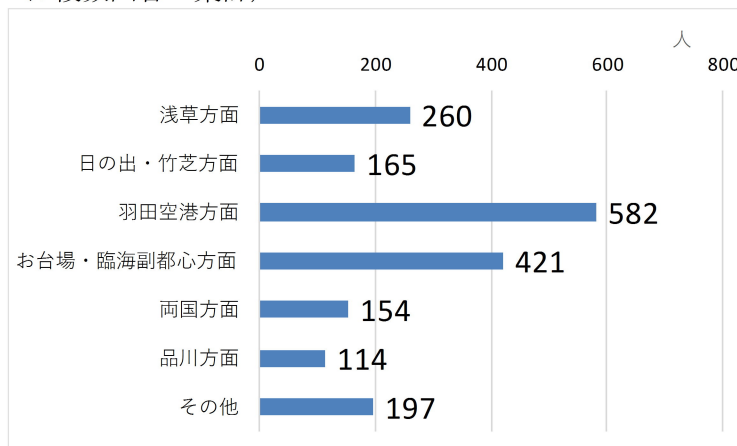
始発時間帯は、「6時台～7時台」に集中し、8割近くを占めた

終発時間帯は、「20時台～21時台」で約5割近くを占めたが、それ以外の時間帯も分散した

⑤ 希望する目的地について

「羽田空港方面」が最多で、次いで「お台場・臨海副都心方面」が多かった

(下記のグラフは複数回答の集計)



5 その他、自由意見

多かったご意見について、項目ごとに要約して以下に記述する。

「船舶への要望に関すること」

- ・ 船を交通手段として使用するのであれば、船舶には屋根や空調設備が必要。

「主に所要時間に関すること」

- ・ もう少し、船の速度を上げる等、所要時間の短縮が望まれる。

「運航に関すること」

- ・ 朝だけではなく、夕刻や夜間の帰宅に資する運航も考えるべき。
- ・ 今後とも継続した運航を実施して欲しい。

「社会実験のオペレーションに関すること」

- ・ 予約サイトや web アンケートなど、社会実験に関するシステムの改善が必要。